
なかじまひろあき（10）しょうらいのゆめはげだつです。

烏木真

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なかじまひろあき（10）しょうらいのゆめはげだつです。

【Nコード】

N0101Z

【作者名】

烏木真

【あらすじ】

俺が面倒を見ることになったガキはどうしようもなく嫌味な奴だった。

（前書き）

ジャンル分けどうしたらいいんだろ……
ほのぼのといいつつ割ときつい設定です。
R15をつけるべきか…

「ああ、解脱してえ。陰陽道止めて仏門入ろっかな。仏門」

ベッドの上でブツブツつぶやくがきんちょ。毎度のことながらむかつくやつだ。

「何を言う安倍晴明の生まれ変わりが」

「だってもう転生飽きたし」

「何枯れたこと言ってたんだ10才のくせに」

「前世の記憶あるから芳樹より精神年齢上だよ」

「どうだか」

大人は温くなった冷えピタを勝手にはがして投げつけてきたりしないと思うぞ俺は。

「どうせ来世も入院生活じゃん。いつそ輪廻から抜け出したい」

「それってヒンドゥー教の方じゃないか？」

「どっちでもいいよ。とりあえずこの状況から抜け出せれば」

抑えきれない苛立ちと諦めをため息と一緒に吐き出すガキ。もう何でも目にしてきた姿だがいつまで立ってもいたたまれない気分になる。

遠い目をして窓の外を見ているガキの額に新しい冷えピタを貼り付ける。

「ひゃっ」

「ガキがいつちよ前に黄昏てんじゃねーよ。生姜湯作ってやるからそれ飲んでさっさと寝ろ」

「……ありがとう」

魂に先天的異常を持つ人間を障り人という。

蓄えている力が大きすぎ、器である体が消耗していくのだ。

消耗を防ぐために体は外に排出しようとするが、高濃度のエネルギーであるため爆発したり、周りの人の気分が悪くなったりする。

人のなかで生きるには体の中に溜め込まなければならぬ。が、溜め込めすぎると死んでしまうため、人を傷つけて生きるか、我慢して早死するか、二択を迫られるわけだ。

しかも魂の病気なので死んでも治らない。

俺が面倒見てるガキもそれでしょっちゅう寝込んでいる。

「なー芳樹」

「なんだガキ」

「力が無いってどんな感じ？」

「お前なあ。それを俺に言うか？ 普通」

「ごめん怒った？」

「別にお前のデリカシーのなさにはもう慣れた」

力ある一族で、ただ一人、霊力なしの落ちこぼれの俺。

だからいつ死んでもおかしくないようなここに配属された。

「惨めなもんだよ。必要とされることがないってのは。……拒否権も無いしな。俺に力があつたらこんなデリカシーのないガキの面倒何て見てねーよ」

「ふうん。……力があるのとないのとどっちが大変なんだろ？」

「さあ、人によるんじゃないかね？」

生きた爆弾に生まれるのとその世話を押し付けられるの、どっちがいいかなんてなってみないとわからないだろう。

力が有りすぎて手に負えないからここにいるしかないコイツと
力がないからここしかいる場所がない俺。

いらぬ者という点では同じかもしれない。

しかし、どんな奇跡でも起こせるコイツと何の奇跡も起こせない俺
とでは徹底的な意識の断絶がある。

謝ってはいるもののたぶんコイツはどれほど俺の心をえぐる発言か
なんて根本的には理解していないのだろう。

「でも」

それでも俺は思う。

「お前はとうしようもなくデリカシーが無くて、気難しくて、イヤ
ミなガキだなあ。

世話を焼くのは嫌いじゃない」

俺の言葉にガキの目が大きく見開かれ、
ふにやりと緩んだ。

「芳樹はどうしようもなく平凡でつまらなくて弱いけど
いい漢だなあ」

「ガキがいつちよ前に評価してんじゃねーよ」

俺が面倒見てるガキはどうしようもなく爺むさくて、イヤミでデリ
カシーが無くてむかつくやつだが、
嫌いではない。

（後書き）

課題からの現実逃避作品。シヨタっ子っていいよね。

確か解脱はヒンドウーじゃなくて仏教だったような……

輪廻思想自体はどっちもあつたと思います。

だから多分間違ってるのは芳樹の方。

ちなみに彼らがいるのは山奥の専用病院。ぶっちゃけ隔離施設。障り人という名称は差別用語として撤廃の方向に進んでいます。だいたいの子は20才くらいまででなくなってしまうようです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0101z/>

なかじまひろあき（10）しょうらいのゆめはげだつです。

2011年11月30日20時04分発行